

コープみえでは、福島県で暮らす方々へのメッセージとイラストを組合員・役職員が書いた「つながりカレンダー」を作成しています。このカレンダーはコープふくしまを通して、仮設住宅にお住まいの方々や組合員の皆さんに届けられ、復興を願う気持ちを伝え続けています。



2012年から15年までのつながりカレンダー。

毎日目にするもので
元気になつてもらいたい

東日本大震災が発生した2011年。コープみえは、被災した岩手県・宮城県・福島県の東北3県で、緊急支援助物資の搬送や引越越し支援、津波の影響で汚れてしまった写真をきれいに洗浄・整理する「思いで戻し隊・みえ」など、さまざまな支援活動に取り組みました。

12年からは、東京電力福島第一原子力発電所の事故で大きな影響を受けた福島県への支援活動を中心に展開。コープみえ主催の親子の保養活動、週末保養企画「こよっト！^{※2}」への組合員ボランティア・職員の派遣などを行なっています。

同年から始まった「つながりカレンダー」もその一つです。このカレンダーは、コープみえの組合員・役職員が書いた福島県で暮らす方々へのメッセージやイラストで構成され、毎年500部を制作。コープふくしまを通して、仮設住宅で生活している方や組合員にお届けしています。

「今も仮設住宅などで生活をされている方や、放射能の問題を不安に思う方がいらつします。コープみえの組合員や役職員がいつも応

三重県から「つながりカレンダー」で届ける 応援の気持ち

コープみえ



2016年の春休みに行なわれたコープみえ主催の福島県の親子の保養活動の様子。



CSR推進部 竹内恵一さん



2016年のつながりカレンダー。卓上で使うことができ、裏にはイラスト作者からのメッセージが掲載されています。



毎年、コープふくしまを訪問し、出来上がったカレンダーをお届けしています。

援している気持ちを伝え、少しでも元気になつてもらえるものをお届けしたいと考え、毎日目にするカレンダーを作ることになりました」

CSR推進部 竹内恵一たけうちけいいちさんは、つながりカレンダーの作成に込めた思いをそう話してくれました。

頭を悩ませる 約200作品の選考

1月始まりのカレンダーを作るための準備は、前年の6月から始まります。宅配のカタログと一緒にお届けするチラシや広報誌、三重県で開催する保養活動の交流企画に参加したコープみえの組合員の親子へのチラシなどで、7月～9月上旬までの間、作品の募集を案内します。毎年、組合員や職員、そしてその家族から集まるのは200作品ほど。その後選考会を実施し、1年分の12作品を選びます。約6か月かけて11月末の完成を目指すといひます。

「選考会には理事や職員が集まってもらい、10人で選考するのですが、どれも福島県の皆さんに応援していることを伝えたい、このイラストで明るい気持ちになつてもらいたいという思いが感じられて、毎年みんなで頭を悩ませています」

すべての作品は冊子にまとめており、コープみえのホームページでも見ることが出来ます。取り組みを知ったコープみえの組合員からは、「生協ならではの取り組みですね」「三重県民である私も元気になりました」という声があがっているそうです。

応援している気持ちを これからも伝え続ける

カレンダーにはコープみえ宛てのはがきが同封してあり、受け取った方が感じたことを自由に書けるようになっていきます。今までに届いたはがきの中には、「仮設住宅でのくらしが続いている中で、かわいいカレンダーをいただけてうれしいです」などのお礼の言葉がつづられていました。こうしたはがきを送っていただけることも、支援活動を続ける励みになっていると竹内さんは話します。

「いただいたはがきや、週末保養企画『コヨット!』での現地でのボランティア活動などからも、まだまだ復興は思うように進んでいないということが分かりました。今も仮設住宅などで不自由な思いをしている方々に、元気になつていただける取り組みを続けていきたいと思っています。『三重県の生協もあなたのことを



福島県を実際に訪れ、知る機会にしようと「コヨット!」の組合員ボランティア・職員の参加にも取り組んでいます。

※1 春休みと夏休みに福島県の子どもたちを三重県に招き、牧場でのバター作り体験や地元の子どもたちとの交流などを行なう企画。

※2 福島県生協連が、福島大学災害復興研究所、福島県ユニセフ協会と共催して2011年12月から実施。放射性物質を気にせずに子どもが伸び伸びと遊べるように、週末に低線量地域で保養を行っている。

変わらず応援していますよ』というメッセージを伝えていきたいですね」
コープみえは、これからもつながりカレンダーで応援の気持ちを伝え、息の長い支援活動に取り組んでいきます。